氏　　名	森永　裕美子
授与した学位	博　士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第９９号
学位授与の日付	平成２７年３月２４日
学位論文の題目	母の育児負担感緩和のための父の親性に関する研究
学位審査委員会	主査　二宮一枝　副査　難波峰子　副査　山口三重子 副査　増田雅暢　副査　木本眞須美

学位論文内容の要旨

本学位論文は，幼児健康診査の実施場面等で行う父母への育児支援の向上に資することをねらいとし，1 歳 6 か月時と 3 歳 6 か月時の父の親性を明らかにすること，そしてその父の親性が，母の育児負担感の緩和にどのように関連しているのかを明らかにすることを目的とした。

前記の目的を達成するために，①1 歳 6 か月時における父の親性と母の育児負担感との関連，また②子どもが生まれてから 3 歳 6 か月時までに父が親になることについてどのような内面（意識）と行動の変化があるのか，さらに③3 歳 6 か月時における父の親性と母の育児負担感との関連を検討することを課題とした。

まず第 1 の課題を達成するために，調査期間中の 1 歳 6 か月児健康診査を受診する児の父母 1,462 件を対象に無記名自記式質問紙調査を実施し，父母の属性（年齢，職業等），父の親性検討項目 23 項目，母の育児負担尺度項目（8 項目），母の育児サポート認知尺度項目（10 項目）について回答を求めた。回収した調査票 914 件のうち，欠損値等を除いた 767 件を有効回答として分析を行った。父の親性検討項目 23 項目から，探索的因子分析を行った結果，父の親性因子として「役割遂行への適応感」「役割期待への受容」「人間的成長・責任感」「児に対する親和性」の４つの下位概念が明らかとなった。

そして 1 歳 6 か月時の父の親性と母の育児負担感との関連の検討では，まず父の親性が母のサポート認知を介して母の育児負担感に影響を及ぼす一連のモデルを措定し，モデルの検証を行った。その結果，1 歳 6 か月時では，父の親性が高まることにより，直接母の育児負担感を緩和することと，父の親性が高まるほど母が父の育児サポートを受けていると認知し，母の育児負担感が緩和されることが明らかとなった。

次に第 2 の課題を達成するために，父がどのように父らしくなるのかを，3 歳 6 か月時で父自身の内面（意識）と行動の両面から検討した。1 歳 6 か月時で 2 年後の調査協力が得られた父母のうち，面接によるインタビューへの同意が得られた 11 組の父を

対象とし，父自身が“父らしくなったと感じたところ”についてインタビューを行い，質的帰納的に分析した。内容分析の結果，35の2次コード，9つのサブカテゴリ（「　」），４つのカテゴリ（『　』）及び2つの中心的概念（【　】）が生成できた。父は，「母とのやり方の違い」などに『父の中で葛藤』し，『バランスをとる』ことにより【父が折り合いをつける】ことをしていた。また，「父としての子どもの関わり」の中などで『役割を遂行する』，『父として実感する』ため，【父として自覚】するようになっており，これらの自覚や折り合いをつけることにより，父らしくなっていた。

最後に第3の課題を達成するために，1歳6か月児健康診査時で2年後の3歳6か月時で調査協力が可能と回答した父母293件に1歳6か月時と同様の無記名自記式質問紙調査をした。92件の有効回答分を分析対象とし，父の親性検討項目23項目の確認的因子分析を行った結果，「夫婦の関係性」「父としての自覚」「児への親愛性」という3つの下位概念をもつことを見出し，1歳6か月時と3歳6か月時では，父の親性の下位概念が異なっていることが明らかになった。また，3歳6か月時の父の親性と母の育児負担感の関連についての検討では，1歳6か月時と同様のモデルを措定し検討した。結果，3歳6か月時では，父の親性が直接，母の育児負担感に関連するのではなく，父からの育児サポートの認知を介して母の育児負担感が緩和されることが明らかになった。

以上，本研究では，父の親性が育児の経験，父自身の成長，母との関係性等の中で変化をしていくものであり，母の育児負担感の緩和には，父の親性の高まりの必要性と，子どもの年代に応じて変化する父の親性が高まるほど，母が父を肯定的に受け容れることを助長し，父からの育児サポートを受けていると認知することが，母の育児負担感に影響を及ぼすと示唆された。

これらは，幼児健康診査の場面で，保健師らが父の親性が1歳6か月児と3歳6か月時では違うことを考慮して助言することや，父が父らしくなるために折り合いや自覚が伴うことなどを父自身に伝えると共に母にも認識してもらうよう促すなど，父母への具体的な助言をする際の知見として有用な示唆が得られた。

主業績

No.1	
論文題目	父の親性（親であること）と母の育児負担感に関する研究
著者名	森永　裕美子
発表誌名	小児保健研究，69（5）；645－656，2010

副業績

No.1	
論文題目	育児をとおして父らしくなる折り合いと自覚
著者名	森永　裕美子，難波　峰子，二宮　一枝
発表誌名	岡山県立大学保健福祉学部紀要，21(1)；57-65，2014

論文審査結果の要旨

本論文は，健やかな成長・発達を目指す育児への指導に寄与することをねらいとして，法定の幼児（1 歳 6 か月及び 3 歳 6 か月）健診対象児の父の親性を明らかにし，父の親性と母の育児負担感の緩和との関連を検証した研究である。

まず，文献検討から父の親性とは「子どもを育てる中で変化していく親役割を遂行しながら得られる人格的特性」と定義し，1 歳 6 か月児健診対象の父 1,462 人に対する無記名自記式質問紙調査のうち欠損のない 767 件の確認的因子分析結果から，父の親性 4 因子 16 項目（「役割遂行への適応感」4 項目，「役割期待への受容」4 項目，「人間的成長・責任感」5 項目，「児に対する親和性」3 項目）を抽出し， 母の育児負担感との関連を見た。結果，父の親性得点が高いと母の育児負担感得点が下がること，父の親性得点が高いと母は父からのサポート認知得点も高まり，母の育児負担感得点が下がることが明らかとなった。

次に，1 歳 6 か月児健診で承諾の得られた 3 歳児健診対象の父 11 人に面接調査を行い，3 歳までに“父らしくなったと感じたところ”について尋ね，質的帰納的に分析した結果，35 の 2 次コード，9 つのサブカテゴリが抽出され，４カテゴリから【父が折り合いをつける】と【父として自覚する】との 2 つの中心的概念が生成された。

続いて，3 歳 6 か月時の父 293 人に対する無記名自記式調査で得た欠損のない 92 件の確認的因子分析結果から，父の親性 3 因子 11 項目（「夫婦の関係性」5 項目，「父の自覚」4 項目，「児への親愛性」2 項目）を抽出し， 母の育児負担感との関連を見た。結果、父の親性が直接，母の育児負担感に関連するのではなく，母が親性の高まった父からの育児サポートの認知を介して母の育児負担感が緩和されることが明らかになった。

以上，本論文で得られた成果は，育児期の父の親性発達支援と母の育児負担感緩和に資する有意義な知見であり，母子保健の推進に寄与するところが少なくない。よって，本論文は博士（看護学）の学位論文として価値あるものと認める。